

モーター自動検査装置の取引先開拓

技術者採用も積極化

シバセ工業 将来的に1つの柱に

ストロー製造などのシバセ工業(浅口市鴨方町六条院中3037、磯田拓也社長、電0865・44・2215)は、モーター用自動検査装置の製造販売を本格化させる考えだ。従来、日本電産(京都市南区、永守重信社長)を主要取引先に計

500台を納入してきたが他の取引先を開拓し、2030年までにモーター用自動検査装置の売り上げ4億円を目指す。

日本電産で開発部に所属していた磯田社長が20年前から、モーター用自動検査装置を開発製造し、日本電産向けに販売



自社開発のモーター用自動検査装置と磯田社長

していたが、近年のモーター関連の伸びなどを見て、取引先開拓を図る計画。日本電産向けに製造した機器の内、製品の基盤となる2機種に年末を目標に定価を付け、販売し、日本電産への売上げ依存の経営体質を改善する。

本格展開に向け、4月には千葉市の幕張メッセでの全国規模の展示会にも出展し、商品に引き合いがあれば、デモ機を1〜2ヶ月無償で貸すなどで、製品力の高さを知ってもらう。開発の人材は現在磯田社長を含め3人体制だが、理系の大学の新卒者を採用し、設計・組立・メンテナンスといったオールマイティな人材を育成する。

磯田社長は「将来的にはモーター用自動検査装置の営業の人材を採用する計画で、販売を促進する。飲料用ストローでは国内トップとなり、医療用ストローなどの用途開発を進めており、開発の人材を採用することでストロー含めた商品力の強化に繋げたい」と展望を語った。

同社は1949年設立。資本金1千万円。従業員35人。売上高は3億1千万円(16年3月期)。